

美しい心意氣で美しい地域づくりを

小林市長は、市議会三月定期会初日の三月三日、「平成十一年度施政方針を説明しました。この中で市長は、「日々行政改革に向けた道筋を鮮明にする」ことと、「森、緑、花に親しみ、美しい地域づくりを着実に進める」ことを基本に「市政を進め、明るい元気な美しい新津を創造する人間性豊かなまちづくりを目指したい」と述べました。以下、施政方針の全文を掲載します。なお、平成十一年度予算は施政方針の下段で紹介します。

本日ここに新津市議会三月定期会が開催されるにあたり、平成十一年度予算案、その他諸議案の説明に先立ち、市政運営に関する所信の一端を申し述べ、議員各位並びに市民の皆さんとの理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。



りた、いと考へておりま
す。
私は市長就任以来、一貫して「市民とともにまことに生き抜く力」を基本姿勢とする。個性豊かで活力のあるまちづくりをめざし、全力で傾けてまいりました。(結果)事業化できたもののは結構数段階にあって、熱度一緒についたもの、あるいは構想段階にあつては

私は、去る二月十四日に告示されました市長選挙におきまして、

的な活動を大切にし、育てる市政、
また市民の皆さんの方を信頼し、
長期的な視点に立って市民の皆さん
の方を引き出し、まちづくりに
生かしていくことにも、このことは
か意を用いてまいりました。それ
は、主役である市民が前に出なけれ
ば、活力に満ちたまちは望まない
いと考えたからであります。
幸いにして、私もこうして

まことに、市長 和田のこころを考え、からぬで、公鳴し、市進展の舞台づくりを楽しむ皆さんが確実に増えてしまりました。「あがの川大花火大会」や「舞鶴西線S-Lの旅」などはその好例であります。新しいところで、「都市緑化にいがたフェア」で花と緑のまち・新津を発信しながら、しっかりとボランティア活動をあげることができます。誠に心強いものを感じます。

さて、迎える平成十一年度であります。ですが、少子高齢化、国際化高度情報化等の社会潮流は一段とその速度を速めております。また、地方の時代と言われて二十五年、地方分権がいよいよ実践段階に移ろうとしております。こうした身体全体で、快適な生活環境の中で心豊かな人間性あふれるまことにとして、また一方では、歴史が育んだ個性を十分に生かしながら地域全体の調和がとれ、主体性の

ある生活空間を生み出し、住民が豊かさを実感でき、多様な個体を実現できる社会であろうと思ふ。これを新津市にあてはめれば、明るい元気な美しい新津市を創造する人間性豊かなまちづくりをすなわち、第二次総合開発計画で「緑の風景」や「笑顔」をかからせ、ふれあい文化都市」の実現にほかなりません。

私は、あらゆる機会をとらえてこの総合開発計画でくくりの指針であるこの総合開発計画を実現にこだわってまいります。

申すまでもなく行政の課題には、防災、福祉、保健、教育、商工、実に幅広いものがあります。で忘れてならないことは、これららの課題の向こうには必ず市民がいることです。まちがあるから人が住むのではなく、人が住むからまちができるいく、このことを念頭に、元気な芽が出やすい、またその芽が育ちやすい土壤づくりが大切であると考えております。

三期目の市政を展開するにあたりましても、私はこうした姿勢を基本に据えながら、皆さんがお約束した「快適で、安全がまち」、「健やかで優しさが響き合うまち」、「人が輝き活力のみなぎるまち」、「豊かな人間味と文化的の資本」というまちの実現に向け、市民の皆さんと一緒にかつて汗を流してきました。

昇は施政方針の下段で紹介したこと、「森、緑、花に親進め、明るい元気な美しいた。」と様々であります。都市として要請される根幹的な部分につきましては、一定の答えが出せたのではないかと考えております。

今、一期八年の主な歩みを振り返りますと、新津市政永年の懸念でありましたクリーンセンターの建設をはじめ、市民生活に直結する河川、下水道、生活関連道路網の整備、また市勢進展に大きな影響となる工業団地の造成や磐越自動車道の開通、さらには交流のまちづくりの拠点となるB&G海洋センター、美術館、植物園、地域学園の整備等々、新しい世紀に向けて飛躍する基礎盤は、ほぼ整ったと認識いたしております。この間議員各位並びに市民の皆さんからお申上げました。心から厚くお礼を申上げました。

一方私は、市民の皆さんの三者

皆さんの税金をひせ
るようになります

